



114
A 329

ガゼット新聞抄譯 一月十五日

一年前余輩ハ二人ノ外國ノ識者(英國人ト云フニ非ズ)ヨリ日本政府ノ爲メニサア、井、ゼー、リー、氏ノ築造シタル鐵甲艦扶桑艦ハ電氣ノ作用ニ依リテ大ナル損傷ノ徴候ヲ現シ亦タ其船体ノ水中ニ入りタル部分モ著ルレキ損傷ヲ蒙リタルヲ聞知セリ横須賀ノ造船所ニテ尚ホ之ニ修復ヲ加ラル可キ筈ナリシガ故ニ此報ノ如キハ太ダ詳細ニシテ且ツ信用ヲ措クニ足ル可キ所ヨリ聞知セシ者ナレバ余輩ハ敢テ之ヲ公布セザリシガ今ヤ此船ハ船渠ニ在リテ其損傷ヲ蒙ルノ大ナル之ヲ吟味シテ之ニ大修復ヲ加フルニ非ズンバ今リ數月ニシテ遂ニ航海ノ用ヲモ爲サズ亦ニ修復ヲモ加フ可ラザルニ至ラントスルヲ知ラタリ電氣作用

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄附



ノ已ニ一タビ其全体ニ及ブ至ラバ其シテ之ヲ絶必
ヲ得可テザルガ故ニ日本ノ海軍省ニ於テ驚駭ス
レタリ夫レ電氣ノ作用ハ能ク鐵ノ組織及ビ性質ヲ變
化スル者ナリ
電氣ノ作用ハ二個ノ原因アリテ必ず其一ヨリ起ル者
ナル可シ第一ハ鐵ノ隔離セザル船体ト黃銅ノ驅進器
ノ餘リ密接セルト第二ニ雙ノ銅ヲ以テ蔽ヒタル船ノ
近傍及ビ其間ニテ久シク投錨スルト
今ヲ距ル一八九〇年前英國ノ官船グラツトン号ハ甚
ダ損害ヲ蒙リタリトアリシガ種々ノ修復ヲ盡シテ而
シテ遂ニ之ヲ恢復シタリ然レモ余輩ハ其如何ナル者
ナリレカヲ明言スルヲ得ズ石灰ヲ以テ一時腐蝕ヲ掩
包シ得可シト雖モ此ニ依テノ恢復ハ其間甚ク短シト

ス佛蘭西ノ海軍ニテハジエプイ、デ、ロ、ロ、氏ニ依テ工
夫サレタル一部ヲ隔離スルノ方法アリテ能ク其目的
ニ適シタリト聞キタレモ大概佛蘭西ノ政府ハ此事ヲ
為スニニツノチテ以テ鉄ノ船底ノ上ニ木板ヲ葺ヒ
此上ニ又銅ヲ被ラセタリ
日本政府ハ或レ恢復ノ法ヲ試ムヲ得可シ其一ハ乃チ
飛脚船ノ舟夫等ヲ用ユル如クニアム、フ、アヤシ、粉料ヲ以
テ葺ヒ之ニ又石灰ヲ塗り而シテ獸脂ヲ流シトナリ
其第二ハ驅進器ノ區域内ニ於テ船材ノ一部ノ隔離ヲ
為ストナリ其第三ハ必ず其功ヲ達ス可キ者ニシテ乃
チ鑄鐵ノ螺旋ヲ用ヒテ黃銅或モ用金屬ノ驅進器ヲ
除去スルトナル可シ
之ニ著色シタル油ノ性質ハ決シテ其損傷ニ就テ閉ス

ル所ナク又タ其損害ヲ以テ之ヲ惡シキ鐵ノ罪ニ歸ス
可ラズ實ニロームア、ボワリン、クローソットノ如キ
美ナルボーラー、トハダラスゴ、或ハクレヴァーランドニ
テ製造シタル通常ノ船用ノ庭板ヨリモ電氣作用ヲ以
テ太ダ損害ヲ蒙リ易シ余輩ハ河村海軍中將ガ各ノ損
傷ヲ蒙リタル板ヲ切り去リ之ニ代ユルニ新キ板
ヲ以テセラレシヲ賛成ス苦シ一タビ電氣ノ作用ニ
依テ腐蝕セラレタル板ハ決シテ復々再ビ之ヲ信用ス
可ラズ

到底此船ハ日本入府ノ為メニハ甚ダ不満足ナル買物
ニテアリタリ亦タ同氏ノ手ニテ築造セラレタル智利
政府ノ風帆船エンセラダ及ビアドミラル、コケレン
号ノニ雙氏其初メノ期望ノ如クナラザリシト云ヘリ

其新船アドミラル、ブラオン号ガ倫敦ノサムダ氏ニ依
テ之ヲ畫シテ築造セラレタルガ如ク余輩ハ智利政府
ガ新シキ鐵甲艦ヲ要セシ片ニ於テ再ビサア、井ーゼー、
リード氏ヲ用ヒザリシヲ見タリ

